

日中韓は共に智恵を

内閣府特命担当大臣(科学技術政策・食品安全・IT)

松田 岩夫



ご紹介に預かりました、内閣府特命担当大臣の松田岩夫でございます。科学技術、食品安全、IT 情報通信技術などを担当しております。

今日は私のとても親しい朱教授から、かねてこういうすばらしいことを皆さんで進めておられるので、ぜひお越しただいて皆さんと一緒に会う機会を作っていたらということ、私も喜んでまいりました。朱教授のお話を承っております、皆様方のなさっておられることのすばらしさの一端を垣間見させていただきました。

今日では、すべての世界の人々が、これからどうしていったらよいのかと一生懸命考えている二つの課題をテーマにした、まことに時宜を得たシンポジウムだと思います。

日本は科学技術を総合的に進めるため、5年ごとに科学技術基本計画を作っておりますが、ついこの間、今年度から5カ年間の第3期目の計画を作りました。その8つの大きな目標のうち、2、3は今日のシンポジウムのテーマそのままでありまして、一つはいうまでもなく、世界の環境問題わが国の環境問題にこれから5カ年間で思い切り力を尽くしていくということです。

もうひとつは、今日のテーマ「高齢化社会の挑戦」であります。日本はご存じのとおり昨年から人口が減少を始め、少子化がいつそう進み高齢化がいつそう進む社会を迎えています。こういった社会の抱える課題はあらゆる分野の課題を包摂、包含しています。そういう中で科学技術がどう対応していくか、これまた第3期科学技術基本計画の中で最も大きな課題のひとつであります。

まず、環境という意味では、地球温暖化に立ち向かうということです。人工衛星から二酸

化炭素など地球温暖化に関する情報を一気に観測する科学技術を確立します。ポスト京都議定書に向けて世界最先端のスーパーコンピューターをこれから作ります。それを用いて21世紀の気候変動を正確に予測する科学技術を確立します。地球温暖化がもたらすリスクを今のうちに予測し、脱温暖化社会の設計を可能とする科学技術を確立します。

そのほかの分野では、効率的にエネルギーを得るための、全世界的バイオマス利用技術を確立し、あるいは廃棄物資源の国際交流に対応する有用物質利用と、有害物質を徹底的に管理する技術を確立します。省エネ技術についていえば、住宅や都市の省エネシステム技術や、エネルギー消費の大きい素材産業の省エネ製造プロセス技術など、今、世界で最も進んだ国がわが国のレベルであると自負しておりますが、それをさらに人類のためにいっそう研究開発していくことに重点的に取り組んでまいります。

時間になりましたので環境問題だけになりました。

アジアの最も進んだ最も責任を持つべき日中韓は、知恵を出し合い、協力し合ってがんばっていくべき定めがありますので、今日のような試みの中で皆さんで知恵を出し合っていた、知恵を私にも教えてください。

今日のシンポジウムのすばらしい成果を期待し激励を申し上げて、こうした機会をいただいたことを感謝すると共に、内閣府特命大臣室はどなたにも開かれておりますので、これからもどうぞおたずねください。